

在来魚、回復中！かいぼり後の井の頭池

水質、水生植物：嬉しい効果続々

約1ヶ月の池干しを経て、3月には満水に戻った井の頭池。かいぼりによって池の環境はどのように変化したのだろうか？最近の池の様子を報告する。

水がきれいになった井の頭池

今回のかいぼりでは水質の改善が期待されていた。池を干し上げて底泥を空気にさらすと、酸化・脱窒作用によって底質が回復し、水質がよくなるのである。

かいぼり後の5月に行われた水質調査の結果、かいぼり前よりも全チッ素（T-N）が減少、透視度は100cm以上を記録した。井の頭自然文化園水生植物館による定期観測でも、かいぼり後は透明度130cm以上の日が続いており、前年同期よりも大幅に改善。かいぼりをしなかった弁天池と比較すると池水の色の違いは一目瞭然で、以前よりも水がきれいになった。

ただし、酸化・脱窒の効果はいつまでも続かない。定期的にかいぼりを行い、池を上手に管理していくことが大切だ。



水生植物の群生場所（お茶の水上流部）

復活した水生植物

透明度が上がって池底まで日光が届くようになると、長年発芽できなかった種子が休眠から目覚めた。これまでにヒロハノエビモなど少なくとも6種の水生植物が確認されている。水中に漂う水草をぜひ見ていただきたい。

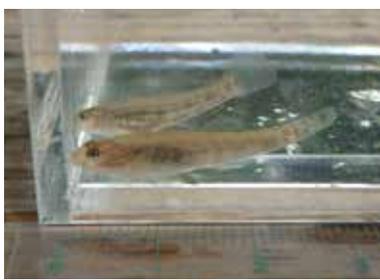
水生植物の復活には、かいぼりで大型の外来魚を取り除いたことが奏功している。水底の泥を吸い込みながら食物を探すコイは、泥を巻き上げて透明度を悪化させたり、根付く前の芽生えを浮かせてしまう。ソウギョも水生植物の大敵である。これらの大型魚がたぐさんといった井の頭池は、とても水生植物が生育できる状態ではなかったのだ。

水生植物が繁茂するとミジンコのすみかになり、濁りの原因となる植物プランクトンを食べてくれる。また水生植物自体が水中の浮遊物を吸着し、さらに水が澄む好循環を期待できる。かいぼりによって自然の回復力が引き出され、池がよみがえり始めている。

在来種、増加中

かいぼり時の水生生物調査の結果、外来種に比べて在来種の数は圧倒的に少なかった。特にトウヨシノボリやスジエビ、ヌカエビは確認数が非常に少なく、絶滅が心配されていたほどである。しかし4月以降の調査では、これらの在来種の稚魚・稚エビが続々と見つかり、回復に向かっていることがわかった。井の頭池ではこれまでほとんど見つかったいなかったナマズの稚魚も多数確認されている。これらの在来種は今までも繁殖していたはずだが、圧倒的な数のオオクチバスやブルーギルに食われていたのである。

在来魚や水生昆虫が増えた結果、それらを食物とするカイツブリが3年ぶりに繁殖した。外来魚によって壊れていた生きものつながりが回復し始めている。



かいぼり後に生まれたトウヨシノボリの稚魚



たくさん見つかったナマズの稚魚



水中の様子。
植物が次々に生えてきている。

まだいる外来生物

次なるかいぼりに向けて

かいぼりは成功したが、うれしいことばかりではない。ブルーギルなどの外来魚は激減したが、捕りきれなかったものがまた繁殖しているのだ。さらに、かいぼりのときにいなかったキンギョ、メダカ、ドジョウなども見つかっている。身勝手な放流は、井の頭池の在来生物にとって迷惑であり、放流されてしまった生きものにとっても不幸である。

こうした外来魚は、来年度に予定されている2回目のかいぼりで再度捕ることができると、アメリカザリガニの増加はやっぱりかたい問題だ。アメリカザリガニはかいぼり後にジワジワと増えており、せっかく生えてきた水生植物をハサミで切っている。お茶の水井戸付近では切られた水草が水面を漂っている。ひょうたん池ではアサザが壊滅的な被害を受けた。アメリカザリガニは泥に潜るので、かいぼりでは捕ることができない。そのため、井の頭かいぼり隊と井の頭かんさつ会がワナによる捕獲作戦を開始している。

かいぼりによって井の頭池は再生し始めたが、1度のかいぼりですべてが解決するわけではない。1回目のかいぼりの成功を喜びつつもさらなる自然の回復に向けての取り組みはまだ続くのである。



調査1回分のアメリカザリガニ
(提供：井の頭かんさつ会 田中利秋氏)

ぼりさん



いけいけ! かいぼり隊

イクメン イケガール
～池男 & 池女、生き物調査真っ最中! の巻～



調査の様子

かいぼりデビューを果たし、ひと仕事終えた井の頭かいぼり隊。しかし彼らのミッションはまだ続く。今年度のテーマは、井の頭池の動向を見守る定期的なモニタリング、そしてかいぼりでは捕れない外来生物・アメリカザリガニの防除である。モニタリングは一定の方法で長期間継続する調査で、かいぼり後の在来生物や外来生物の変化の推移をつかむ重要な活動だ。アメリカザリガニ対策では、数種類のワナを使い、お茶の水池で捕獲している。深い場所ではボートやフローターなどの乗り物を使う。モニタリングは月2回、アメリカザリガニ防除は週3回実施している。日程は井の頭恩賜公園100年実行委員会のホームページで公開している。活動の様子を見にぜひお越しいただきたい。



夕毛網による調査



藤棚のベンチ付近でも、よく見ると生えているのわかるのじゃ!



ひょうたん助

A. お茶の水橋と七井橋から池をのぞいてみるのじゃ!

Q. 池の中の水草はどこから見ることが出来るの?!